

業務内容

58年間にわたって航空宇宙機器部品を製造
機体部品や治具部品を製造

技能・技術をより高度に発展させる その基礎固めには“技能検定”が最適

当社は昭和31年に起業し、航空機の部品製造に早くから取り組んできました。58年間にわたり航空宇宙機器の部品を提供しています。ボーイング787、777Xの最新旅客機の部品提供だけでなく、戦後初の旅客機YS-11の部品交換にも対応していました。また、国家プロジェクトであるH-IIA等ロケットには当社の部品が100点以上搭載されており、我が国初の国産ジェット旅客機であるMRJの部品も手がけています。



代表取締役 矢野 照明 TERUAKI YANO

多品種小ロット、難削材といった課題を 長年にわたるノウハウの蓄積でクリア

航空機には約300万個の部品が使われ、その材料には軽さや粘り、固さなど様々な条件が求められます。ロケットにはさらに多くの部品が必要で、材料は1,000度を超える熱に耐え得るものを使います。これが難削材といって加工が非常に難しいのです。航空宇宙機器部品では、多品種・小ロットの部品それぞれに高い精度と品質保証が求められ、さらに難削材の切削加工技能が必要です。それに応えられるだけのノウハウを蓄積していることが当社の強みといえます。

特に、鉄、マグネシウムなど多様な材料のそれぞれの特性を見極めて加工するのは大変難しい高度な技能です。また、様々な部品を少量ずつ加工するために、技能の修得にとっても時間がかかり、10年かかっても、なかなか一人前の職人にはなれません。



■ 技能士数

職種名	作業名	1級	2級
機械加工	普通旋盤作業	1名	1名
機械加工	数値制御旋盤作業	1名	2名
機械検査	機械検査作業	-	2名

■ 技能検定年間受検者数

年度	受検者数	合格者数
2014(平成26)年度	1名	1名
2015(平成27)年度	1名	1名
2016(平成28)年度	6名	4名



Company Profile

企業名：熱田起業株式会社
〒454-0836 愛知県名古屋市千川区福船町4-1-1
業種：航空宇宙機器部品製造
設立年月：1956(昭和31)年11月
資本金：1,500万円
従業員数：37名(事務系10名、技術系23名、技能系4名)
主な製品等：航空機、ロケットの機体部品を2,000アイテム以上製造。
アルミ、鋼、チタン、インコネル等多種多様な切削加工で多品種小ロット生産を得意としている。

1級技能士の誕生をきっかけに 若手社員の技能修得がスピードアップ

長年かけて高度な技能を職人一人ひとりが蓄積してきた当社において、若手社員の技能修得のスピードアップが大きな課題となっています。そんな中、3年前に社員の1人が「技能検定」を受検したいと申し出てきました。30代半ばの彼は、機械加工(普通旋盤作業)1級技能士にいきなり合格し、若手社員の憧れの的になりました。彼が牽引するかたちで、若手社員が徐々に技能検定に挑戦するようになり、機械加工や機械検査の分野で、当社にも1級及び2級技能士が次々と誕生しました。

技能検定で学ぶ知識や技能は、その作業における全ての基礎となります。基礎を身につけることで、ベテラン社員の技能をより理解しやすくなり、若手の技能がレベルアップしたのを実感しています。また、資格取得が自信につながり、モチベーションも上がります。社員皆が名札や名刺に「技能士」と書きたいのです。そうした社員の願いをできるだけ叶えるために、会社として様々な支援をしています。検定前の準備は「仕事」だという考え方で、残業代を支給します。ま

た、受検手数料を会社で負担し、合格すれば2級は5,000円、1級は1万円の技能手当を毎月支給します。

今後、新規事業として航空機エンジン部品の分野への参入を検討していますが、非常に高度な加工技能が要求されます。新しい技能を導入し、新しい機械や制御装置でこれまで加工ができなかった難しい部品にチャレンジしようというときには、やはり「基礎固め」が非常に重要です。

社員が身をもって教えてくれた「技能検定」を活用しながら、若手社員の基礎固めを図っていくことが、今後の会社の発展に欠かせないと考えています。



Interview

技能士インタビュー

将来、
黄綬褒章を
受章したい!

熱田起業株式会社

取得技能

機械加工(普通旋盤作業)1級技能士
ものづくりマイスター

技能士 西川 篤志

製造部生産技術課課長 ATSUSHI NISHIKAWA



伝えなければ「技能」ではない
「技能」は伝えてこそ、生きて発展していく

会社に技能検定を取り入れるよう提案
自分が1級技能士の第1号に

技能検定については、私が航空機の部品を任されるようになり、顧客と話す中でそういう資格があることを知りました。もっと早く知っていれば、もっと早く挑戦したかったです。当社では、職人の技能・技術が非常に重要ですが、熟練した職人でも技能を人に教えるというのは困難なことです。また、基本を教えてもらえずに仕事を始めている場合がほとんどなので、人にも基本を教えられないのです。私も「見て覚える」と言われ、よくわからないまま、ここでコツコツ積み上げるしかないと思っていました。

そんなときに技能検定を知り、もっと自分をレベルアップさせたいと、3年ほど前に会社の人材育成方法の1つとして、技能検定制度を取り入れてもらえないかと提案しました。幸い、社長に様々な支援をもらい、1か月程度の準備期間を経て、機械加工(普通旋盤作業)1級技能士を取得しました。会社で初めての受検で準備も社内でもやらせてもらい、プレッシャーは相当なものでした。体調も万全な状態にして、絶対に合格するという気持ちで臨みました。

今は若手を指導する立場となり、技能検定を積極的に受検するよう指導しています。技能検定で基礎的なレベルアッ

プを図り、熟練の技能をより理解・吸収しやすくしようという事です。若手と熟練技能者との技能・技術レベルの差を埋めようと会社として技能検定の受検を支援しています。

ひとりの理解者が現れたことで、
今の自分がある!

以前は、なかなか会社に認められず、「西川はダメだ」と言われたこともあります。しかし、現社長に私を認めていただき、活躍の場を設けてくれたことで今の自分があり、本当に感謝しています。

前職が美術教員であった現社長は、現在も作品展を開くなど多様な活動をしていることもあり、非常に豊かな発想と柔軟な考え方を持っています。自分もそのようなところを見習って今後も成長したいと思っています。



若手に技能・技術を修得した喜びを
教えること、伝えることが大切

技能検定を通じてもう1つ見えてきたのが、教育により技能・技術を伝承していくことの重要性です。これまで私はものをつくることに集中してきたため、人に教えるということが理解できていませんでした。これまでの職人の「見て覚える」という教育方法を押しつけるのではなく、今の時代に合った教育方法が大切だと思うようになりました。

技能検定に取り組むことで、若手も変わってきます。普段

は機械のボタンを押すだけの若手でも、技能検定では自分の手で機械を動かします。その感覚が身につき、音を聞いただけで状態がわかるようになります。これまで1人で機械1台についていたのが、2台使うようになるなど、技能がレベルアップして作業効率上がり、確認作業もかなりスピードアップしてきたと感じています。

若手は普段、仕事ではなかなか周囲から認めてもらえませんが、技能検定に合格すると、技能手当が支給されるだけでなく、朝礼で皆の前で社長から賞状をもらい拍手してもらえます。技能検定は認められるチャンスなのです。



将来の製造業を支えたいという気持ちで、
日本にしかできない技能・技術を開発したい

ものづくりマイスターとなり世界が広がった
IoTを活用した先進事例も担当

ものづくりマイスターになり、外部との折衝が増え、様々な知識・経験ができましたが、今後は「優秀技能者表彰」がもらえるよう、日々励みたいと考えています。

今注力しているのは、工場内へのIoT導入です。当社の多品種・小ロットの部品加工にはたくさんの機械が必要ですが、IoTによる設備の稼働監視・実績管理システムを導入した結果、3か月の間で稼働率が2%上昇しました。IoT活用の好事例として、国内最大級の設備機械・技術の専門展で当社の

取り組みが取り上げられたり、大学での講演を行いました。1級技能士となったことをきっかけに、取引先を始め社外から声がかかるようになり、会社の中にいた自分が本当に小さく感じます。

今、「ものづくり」が日本から海外へ流れています。航空機産業も将来、そうなるのではないかと危惧しています。それでも日本に残っていく技能・技術もあるはずですが、航空機のエンジンなどの高度な技術が要求される重要部分です。それは日本に技能・技術があるからで、手先の技能や治具のノウハウを海外は真似できません。海外と違った、日本にしかできない技能・技術を開発して、将来、日本の製造業を支えたいという気持ちです。